

ツールの名称	機器特性曲線デジタイザ
開発者の氏名	宮田征門
開発者の所属	建築研究所
ターゲットとする機器/システム	機器単体
ツールの分類	測定、 情報/データ 、データ処理/表示、モデル、シミュレーション

ツール開発の背景・目的

機器モデルのパラメータを推定するためには、メーカ提供の機器特性曲線を読み取る必要がある。通常、この曲線は印刷された図面として提供されるため、モデルを作成する際には手作業で曲線上の値を読み取るという煩雑な作業が発生する。本ツールは機器特性曲線のデジタル化を支援するツールであり、これを利用すればパソコン上で特性曲線を効率よく読み取ることができる。

ツールの機能

スキャンした機器特性曲線を読み込んでモニタ上に表示し、マウスを使って曲線上の値を読み取ることができる。読み取った値は csv 形式で保存される。また、読み込んだ図面を調整する（拡大、縮小、移動、回転）機能を持つ。

Cx プロセス中でのツールの位置づけ、使われ方

設計段階や運用段階において、機器モデルやシステムシミュレーションを作成する際に利用される。

Cx プロセスにおけるユーザ（誰が使い、誰に結果を渡すか）

エンジニア(主に設計者)や Cx プロバイダなどでシミュレーションの作成者が使用する。

Cx プロセスにおけるツール適用のメリット

機器モデル作成時の煩雑な作業を効率よく実施することができる。

実行環境

開発には Visual C#を用いているため、実行には .net framework が必要である。

操作性, ユーザインターフェイス

対話型でグラフィカルなインターフェイスが実装されている。適宜表示されるメッセージに従って作業を行えば、簡単に曲線を読み取ることができる。

必要なデータの形式, 管理方法

機器特性曲線は、jpg か png、gif 形式にて保存すれば読み込むことができる。

ツールの検証, ケーススタディ

小委員会の委員に試用してもらい、正常に動作するかを検証した。また、コミッショニング委員会・機能性能試験方法検討小委員会にて、試行をして頂いた。

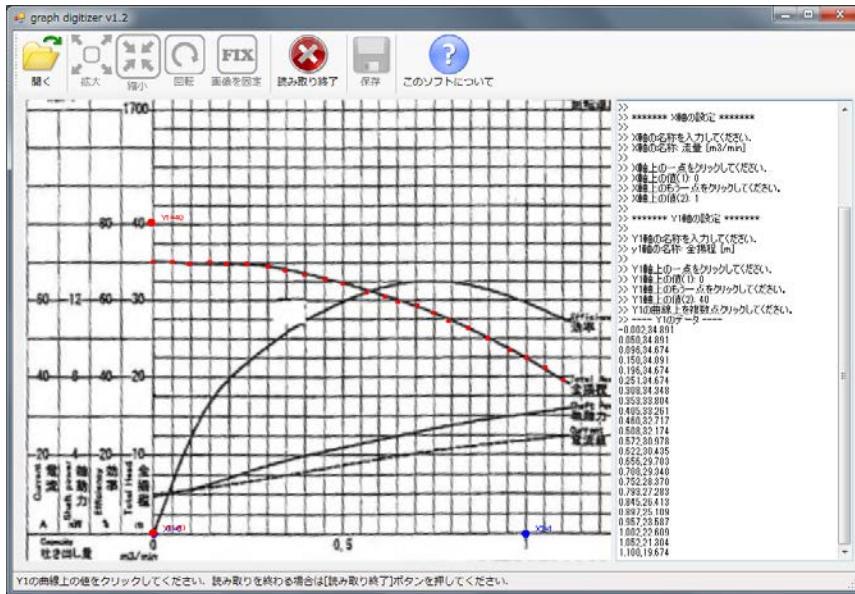


図 インターフェイス